

## 第39回定期委員会「委員会宣言」

### 委員会宣言 (案)

JR 東労組青年部は8月21日、レイボックホールおおみやにおいて「第39回定期委員会」を開催し、1年間のたたかいの到達点を確認するとともに、青年部の在り方、これまで積み上げてきた青年部運動を軸に組織の力を結集し、1万人組織の実現をめざしていく方針を満場一致で確認した。

今委員会では、青年部の在り方について、執行部と連携して議論をつくり出す端緒となった。青年部の良さは「同世代の未加入者の声を相手の目線に立ち、本音を聞くことができる」「若手同士で指摘し合い、学習を通じて労働者であることを自覚すること」である。

23春闘では、対話を通じて会社や社友会の低額相場にだまされない青年部づくりを推し進めてきた。また、23春闘の結集軸として開催したスプリングフェスティバルに多くの仲間と家族が結集した。各地方では、賃金学習会等の集まる場を創造的に作り出し、組合員だけではなく未加入者の組織化をおこない、組織拡大を推し進めてきた。また、未加入者の現実を掴むことや自らの言葉で自分たちの賃金や現れている会社の姿勢について訴えることなど、青年部リーダーの強化をかちとることができた。

一方で、私たちの命を脅かされる重大事故が相次いで発生している。6月16日、内房線上総湊～竹岡間において、パートナー会社社員の感電死亡事故、8月5日には東海道線で電車と電化柱が衝突する命を奪いかねない重大事故が発生した。会社は安全は経営のトッププライオリティというものの、「安全」が根幹から揺らいでいると言わざるを得ない事態が発生している。

また、国府津運輸区や宇都宮運輸区で発生した懲罰的日勤教育、豊田運輸区での人間破壊の強制転勤など、休職を余儀なくされる仲間が後を絶たない。会社の企業体質を断固として許さず、「いのち」を守るために会社に立ち向かう青年部組織をつくりあげていくとともに、職場からの実践によって「責任追及から原因究明へ」の安全哲学を再構築していこう。

ロシアがウクライナに侵攻してから1年半が経過した。依然として戦禍は留まるところを知らず、一般市民の犠牲が増え続けている。日本においては防衛費の増額や安保関連三文書の改定など、戦争のできる国づくりが着々と進められている。JR 東労組青年部は、平和研修で沖縄やヒロシマの地に立ち、戦争の悲惨さを学んできた。いつの時代も犠牲になるのは弱い立場の労働者であり、この悲劇を二度と繰り返してはならない。あらゆる戦争政策とテロにNOを掲げ、平和な社会を実現するために、今後も平和運動を推し進めていく。

この間の積み上げてきた運動を軸に、これからも仲間とのつながりを絶やさず、青年部の未来を創造するとともに1万人組織の実現をめざし、私たち一人ひとりの実践でJR 東労組の展望を切り拓いていこう！

以上宣言する。

2023年8月21日  
東日本旅客鉄道労働組合青年部  
第39回定期委員会

1万人組織実現に向け、青年部一丸となって頑張ろう！！

